

ギリシヤの神話の英雄と パピダンサーの伝説の島

「海をワレントへ」で有名なワレントから、車で約1時間程進むと、ボジタリーノに到着。海の中からは、文藝が噴きわったような形を呈し、見えるように見える。雄大な雄鶏手は、シレーヌの島だ、と言った。

高層アユマセフが、トロイ戦争からの帰途途中に迷った最大の難所、島から帰く、あまりの苦痛に、船は次々と海に飛び込んでしまおうといふ。この島を通り過ぎる時、オデュッセウスは神託員全員に、「耳こもつめる」と告じ、自らはマストに身体を縛りつけた。シレーヌの美声をどうしても聞いてみたかったのだ。

1910年と年代は、この島リ・ガッリ、雄鶏という名前がつけられている。きつくりの男が手に入れた、ルネサンスエフ、かの名なきシリア人パピダンサーである。彼は島の島にアシメスタイルを建設しようとした。その計画は島の民によって断られた。50歳を過ぎた彼は、若い肉体に憧れた男を社したたけだが、後述、この島の島はリゾート開発が盛んなので、これもといふ。さまざまな人の欲望を情目に見ながら、シレーヌの島は、今日もボジタリーノの海に浮かんでいる。



リモネを使ったリキュールは最高のおみやげ
イタリアで最高のリモネ (レモン) は、ここボジターノで採れる。レモンの皮とアルコール、シロップを使ったリキュール「リモンチェッロ」を真なら「SAPORI DI POSTANO (VIA MARCELLO POSTANO 2001-1111) がいかに、島の裏にはレモン畑と小さなビニビニの工場が、一番売れているのは200ml入り10000〜20000 (ビンのサイズで異なる) 写真家はオーナーのバボロ・ルソッ武 (40)



人気のショップで、デザインパッチリオリジナル水着を作った

ボジターノで一番人気のあるリゾートウェアのお店が、ここ「LA TARTANA, VIA DELLA TARTANA 5 00183-873645)。海に下っていく浴場の目のところにある。ここでは最新オリジナルのビキニも作った2時間で作ってくれる。中級と高級のジュリアが作り、保ち、生地は、カットと縫製でできあがり。値段はストリート素材で1000000

ドミンゴも出る山崎正一音楽祭に出かけた

ボジターノから車で約30分、ラブエロという小さな島の集合には、かつてワグナーが島のヴォカリスをそこで演奏したという「ブエロ・ルッフォロ」がある。彼を記念した音楽祭「FESTIVAL MUSICALE DI RAVELLO」が、毎月10日から2月1日までの期間開催されている。私たちが見たときは空気が良かったが、豊田日にはワグナーのオペラ「ワグナー」のタイトルロールを、ブランド・ドミンゴが歌うのだが、当日は40人の日本人がここを訪れる



マリア・カラスやマーガレット王妃も訪れた店でサンダルを縫える
セウキウカブリにきて、ブランドのブティックばかり開いているんじゃない、"CAPONE, (VIA CAMERELLE 0081-837-0487) 家は900で、1935年にジョアキーン・ウネディアのために作られたオリジナルのサンダル「M」を、自分の足に合わせる作ってもらおうというのどう? あっという間にできちゃう。お値段は1013000と、決して安くはないけれど、夏のファッションに似合ってもピッタリ

有名な「カブリ風サラダ」はやっぱり本場のレストランで食べたい

1930年に開店したという古い歴史を持つレストラン「LA CAPANNINA, (VIA DELLE BOTTEGHE 0081-83707) 家(1015:00, 10100-24:00)で、やっぱり「INSALATA CAPRICE (カブリ風サラダ)」100000を食べて、トマトとルッコラとモッツアレラチーズの「カブリ」はとオリーブオイルがかかっている。オーナーのアントニオさん (60の高齢者) を始め、スタッフもみんな笑顔で大満足



記念写真も、有名な「カブリ風サラダ」を食べ、東カブリニヤからローマに帰る途中に、カブリ島に降りている。その話を聞いた、カブリ風サラダは、この島の南部の地域に、多くの店舗を建て、建設し、生産者の10年間を過ごした。

カブリ島は、2000年の年だった年でも、エリートたちのヴァカンスのシンボリック

選ばれた人たちの 綺羅の空間カプリ島

カプリ島には、あがれのすべてが存在する。美しい自然、文化と芸術の香り、中世の古い街並み、そして美しいシロビニング、でも本島の魅力は違うところにある。

Photographer: Stefano Biondi, Nicola Sestini, Riccardo Tognoli, Studio Sestini, Riccardo Tognoli